

ポジティブ子育て 66号

～子どもの気持ちに寄り添っていますか～



『ん？ん！』
こども園しんよこえ



『みんなで力を合わせて掘った大きな大きなおもだよ！』
神明幼稚園



『みんなで登った文殊山』
片上小学校



『校舍お別れ会』
鯖江中学校

まなべの館特集

美術展について

生誕105年記念—— 「木水育男と児童画」の世界を開催します！

戦後の美術教育において評価の高い創造美育運動を主導した、鯖江市出身の美術教師・木水育男。生誕105年を記念して、木水氏自身が制作した絵画作品やコレクションの一部の展示と、赴任校にて指導した児童が制作した作品を紹介します。

会 期：令和7年1月5日(日)～1月26日(日) 午前9時～午後5時
※初日はオープニングのため午前10時より開館
休館日：毎週月曜日 ※入館は午後4時30分まで
会 場：鯖江市まなべの館(鯖江市長泉寺町1-9-20)
観覧料：無料

主催/鯖江市・鯖江市教育委員会
共催/生誕105年記念「木水育男」展実行委員会
後援/福井新聞社・FBC福井放送・福井テレビ・こしの都ネットワーク株式会社・月刊URALA



関連イベント等詳細はこちら



鯖江の歴史について

さばえのお城はお山の上に？

鯖江市には、中世に造られた「山城」が多く分布しています。特に「日野川合戦」にともなう南北朝期の山城が多数造られたようです(『太平記』)。

代表的なものとしては、北中山地区所在の三峯城跡(市史跡)や豊地区所在の三床山城跡(市史跡)があります。

どちらも、防御施設としての名残が随所に見られ、当時の人々の工夫を私たちに教えてくれます。また、現在では人気の登山コースとしても注目されており、学校行事にも活用されるなど、市民にも愛されるスポットとなりました。みなさまも一度訪れてみてはいかがでしょうか？

三峯城跡の詳細はこちら



三床山城跡の詳細はこちら



三峯城跡から一乗谷を望む



三床山城跡から鯖江市街地を望む

家族で



『みみをすます』
谷川俊太郎/著
福音館書店

小学校高学年～



『ねむりひめ』グリム/原作
フェリクス・ホフマン/え
せたていじ/やく
福音館書店



『土の中からでてきたよ』
小川忠博/写真と文
平凡社



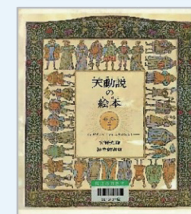
『ちのはなし』
堀内誠一/ぶんとう
福音館書店

小学校低学年～



『おさをあらわなかったおじさん』
フィリス・クラジラフスキー/文
バーバラ・クローニー/絵
光吉夏弥/訳 岩波書店

中学校～



『天動説の絵本』
安野光雅/著
福音館書店

小学校中学年～

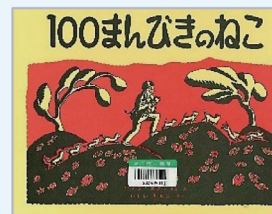


『よわいかみ つよいかたち 新版』
かこ・さとし/著・絵
童心社



『ごきげんならいおん』
ルイズ・ファティオ/ぶん
ロジャー・デュボアザン/え
むらおかはなこ/やく
福音館書店

4・5歳～



『100まんびきのねこ』
ワンダ・ガアグ/ぶん・え
いしいもこ/やく
福音館書店

鯖江市図書館おすすめ
親子で読んでほしい本
親子で過ごす大切な時間、読書をしてゆつたり楽しんでみてはいかがでしょうか。

子どもの気持ちに寄り添うってどういうこと？

お子さんのことで周りの人に相談した時に、「もつと子どもの気持ちに寄り添ってあげてほしい。」「なに言われることがあるませんか。それは具体的にどうすればいいのか迷っていますよね。」「子どもの気持ちに寄り添うってどういうこと？一緒に考えてみましょう。」「わが子が学校から帰って泣いています。どんな言葉を、どんな順番でかけると、このその気持ちに寄り添うことができるのでしょうか。」「





A
たいしたことはないよ。
自分にも悪いところがあるんじゃないの？



B
泣くのをやめなさい。
泣いても解決しないよ。
泣いたら負け。



C
涙が出ているね。



D
ケンカしたの？
先生に叱られたの？



E
誰とどんなケンカをしたの？
先生はどうして注意したの？



F
わかったよ。悪いのは
〇〇さんだから、
先生から注意してもらおう。



G
つらいね。
嫌なら学校に行かなくていいよ。



H
そうなんだね。
悔しかったね。
悲しかったね。



I
どう思ったのかな。



C
今の状態を伝える。



D
首を振って答えられる質問をする。



E
落ち着いたら出来事
を尋ねる。
(紙に書いてもよい。)



I
気持ちを聞く。



H
共感する。

次のように言葉をかけてはどうでしょうか。



Aは、相手の本当の気持ちを理解するのではなく、「たいしたことない」「プラス感情に気持ちを変えよう」としています。マイナス感情でもありのまま表現することが大切です。



Bは、今の状態を否定しています。まずは、否定せずに「今のあなたに関心をもっている」ことを伝えましょう。



Fは、子どもの話を聞いて要求に応えようとしています。甘やかすのではなく、本人が解決のためにできることを一緒に考えましょう。



Gは、子どもの話を聞いて、自分もつらく悲しい気持ちになっています。子どもの気持ちに同調する、冷静な判断ができません。

正解は一つではありませんが、次の4つはタイミングや内容を考えての方がよさそうです。

Aは、相手の本当の気持ちを理解するのではなく、「たいしたことない」「プラス感情に気持ちを变えよう」としています。マイナス感情でもありのまま表現することが大切です。

Bは、今の状態を否定しています。まずは、否定せずに「今のあなたに関心をもっている」ことを伝えましょう。

Fは、子どもの話を聞いて要求に応えようとしています。甘やかすのではなく、本人が解決のためにできることを一緒に考えましょう。

Gは、子どもの話を聞いて、自分もつらく悲しい気持ちになっています。子どもの気持ちに同調する、冷静な判断ができません。

他にも、泣いている最中に、次々といくつもの質問や声かけをするのはNGです。子どもの気持ちが落ち着きません。

子どもの気持ちに寄り添う

子どもの信頼関係を強くする

すぐに解決

「子どもの気持ちに寄り添うこと」は解決を急ぐことではありません。子どもの本当の気持ちを理解し、「子どもとの信頼関係を強くすること」です。子どもの要求を何でも聞くことや何かしてあげることと混同せず、本人がどうなりたいのか、何を望んでいるのかと一緒に考えられるといいですね。決めるのは子どもです。そのために、できるだけ肯定的な言葉で、話をじっくりと引き出して、自分の困り感や自分では解決していないところ、子どもの力を育てていきましょう。

涓滴

子どもの心の安定を「子どもに聞きました」

前号の涓滴で、「ポジティブトークを増やす」「質問を減らし、褒めることを繰り返す」「見たままを言語化する」「子どもの遊びに注目する」など、子どもの心を安定させる環境づくりについて提言しました。

そこで今回は、この提言を子どもたちはどう思うか、高校生に小中学生時代を振り返ってもらい、提言に対する子どもたちの感想を聞きました。

三回程度注意し、それでも聞かないなら、一度は聞き流し

三回注意された後、何も言われないと「どうしても言わないのかな」と心配になりました。そして「注意された言葉を繰り返して考え、自分から行動するようにしました。その場で、注意してくれるのは良かったです。またすぐ褒めたりしてくれるのも心に残っています。

ちゃんと注意してくれるということは、私の事を見てくれているということのように思っています。個人差はあると思いますが、見捨てられたと思わせないことも必要なのではないでしょうか。

安心できる言葉かけを増やす

自分が不安になったとき、「大丈夫だよ」「頑張れ」と言われると安心します。

お母さんから「こんな場合、どうするのかな。考えたら、また話をしにきてちょうだい」と言われ、安心しました。実際には、自分で解決しましたが、親が見守ってくれている感じがしてほっとしました。

親の「命令・質問・批判」を減らす

「洗い物をして」と命令されても、その後、褒められることはありません。『洗い物お願いしたいな』と言われると、自分からやりたくなりました。

命令や批判に聞こえることが多く聞いていると辛いです。少し褒めてくれると、生活していても優しい気持ちになります。

やわらかい言い方をされると、やる気が出ます。

見たままを言語化する

見たままを言われると、わかってきているのだという気持ちになります。マイナス面ばかりを言語化されると、『もっと私をよく見て』という気持ちになります。

ポジティブな面を声に出して言われると、褒められた感じがします。

子どもたちの変化に目を向けることは、楽しい子育てにつながるようです。それを子ども達に伝えることで、子どもも元気になると思います。子どもたちは注目されるだけで落ち着き、親の思いを子ども自身の成長に変えていく、子どもたちの感想から見えてきたことです。

※「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となることの願いをこめて。